



タブレット・PC等を活用して、
有料老人ホーム立入検査業務を
効率化したい！

実証実験報告書

株式会社 ユニオンシンク
×
福祉局 高齢福祉課

目次

- 1. 実証実験の概要
 - 背景・目的
 - 対象となる業務の全体像
 - 目標・KPI
- 2. 実証実験の結果
 - KPIに関連する結果
 - 工夫したポイント
 - 実証実験で得られた発見
- 3. 課題と今後の展開
 - サービス/システムにおける課題
 - 導入に向けての課題と解決策
- 4. 参考資料
 - 成果物(制作物)紹介
 - サービス/システムの紹介
 - メディア掲載事例紹介

1. 実証実験の概要

背景・目的

有料老人ホームの総数は年々増加しており、高齢者ケアの受け皿として地域の福祉に大きな役割を果たしています。愛知県では、県内(政令市・中核市を除く。)の施設に関しては老人福祉法の規定に基づき、各施設の適切な運営を促すため、**定期的な立入検査**を行っています。

立入検査では、紙の資料を持参し、施設巡視による設備面の確認、各種帳簿などによる運営面の確認を行い、改善点があれば改善指示事項を**手書き**で作成し交付しています。


その後、施設から改善報告が提出されると、結果を紙媒体からデータベースへ**手作業**で入力し情報を登録しています。

このように何度も手作業が介在する中では、時間と労力がかかってしまっています。デジタル化によって手作業による時間を短縮することで、今後も増加していく施設の立入検査の効率化と指導記録等のデータ化により、過去の指導状況等が**逐次閲覧可能**となり、効率的な指導業務が実現できると考えています。

現状の課題

「立入検査」の具体的な業務は次のとおりです。

- (1) 検査対象の施設をピックアップして、1カ月前には通知書を送付
- (2) 施設から事前提出資料を受け取り、立入検査の準備
- (3) 指導指針や施設ごとの過去の事例集をもって立入検査を実施
- (4) 立入検査時の改善指示事項を施設に交付
- (5) 立入検査の内容について高齢福祉課内で決裁
- (6) 改善報告が届き次第、高齢福祉課内で報告し内容について承認
- (7) 指導記録をデータベースに入力

 業務フローは8ページに記載

課題の詳細

1. 立入検査時の改善指示事項を手書きで交付している
2. 書き間違いや訂正が発生しており、作成に時間がかかっている
3. 立入検査時の指導の根拠となる参考資料は紙の資料を持参して該当部分を探している

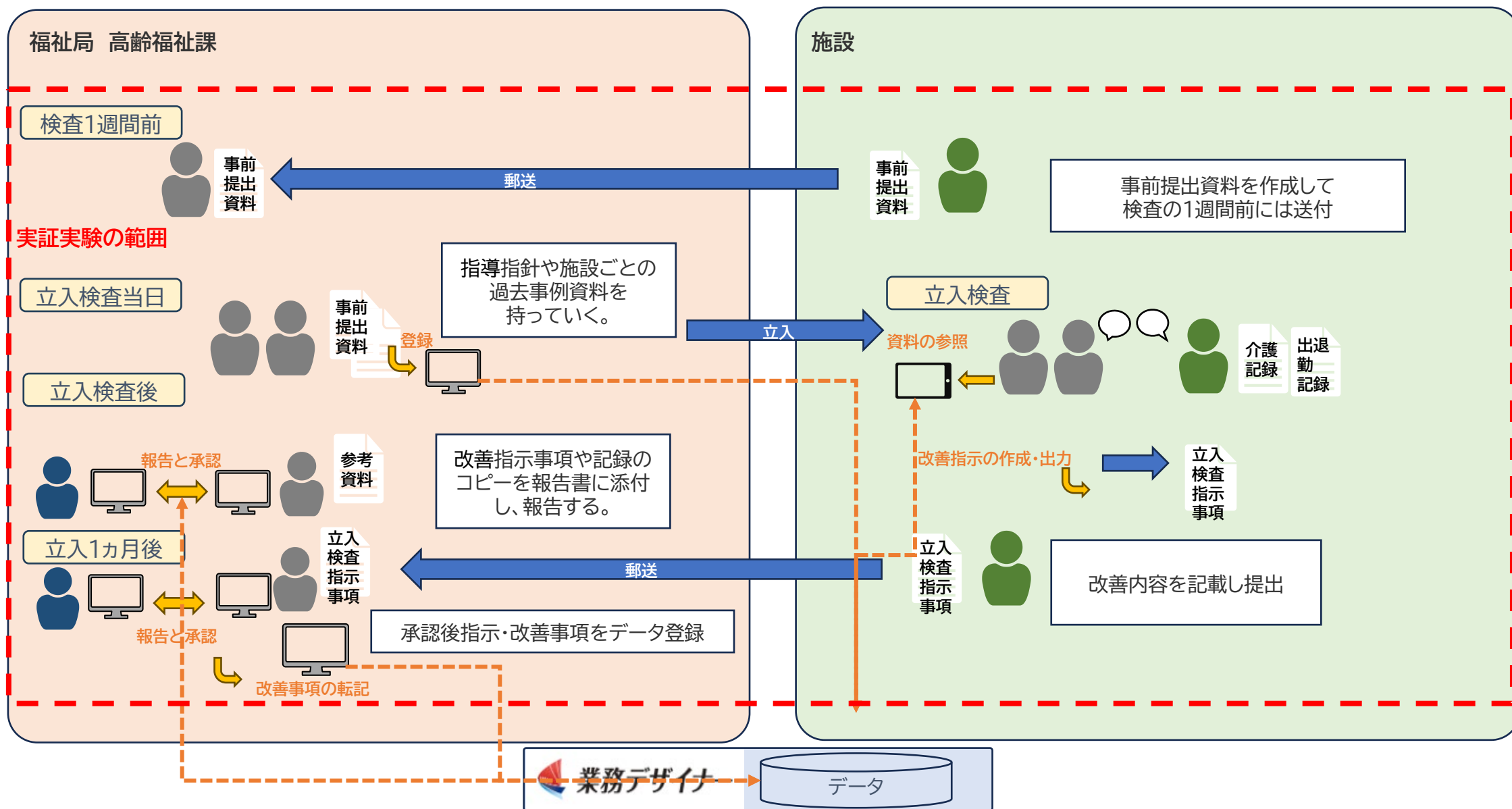
課題に対する解決策と実証実験内容

先の課題を解決するために協議し、以下の解決策を実証実験で行うこととした。

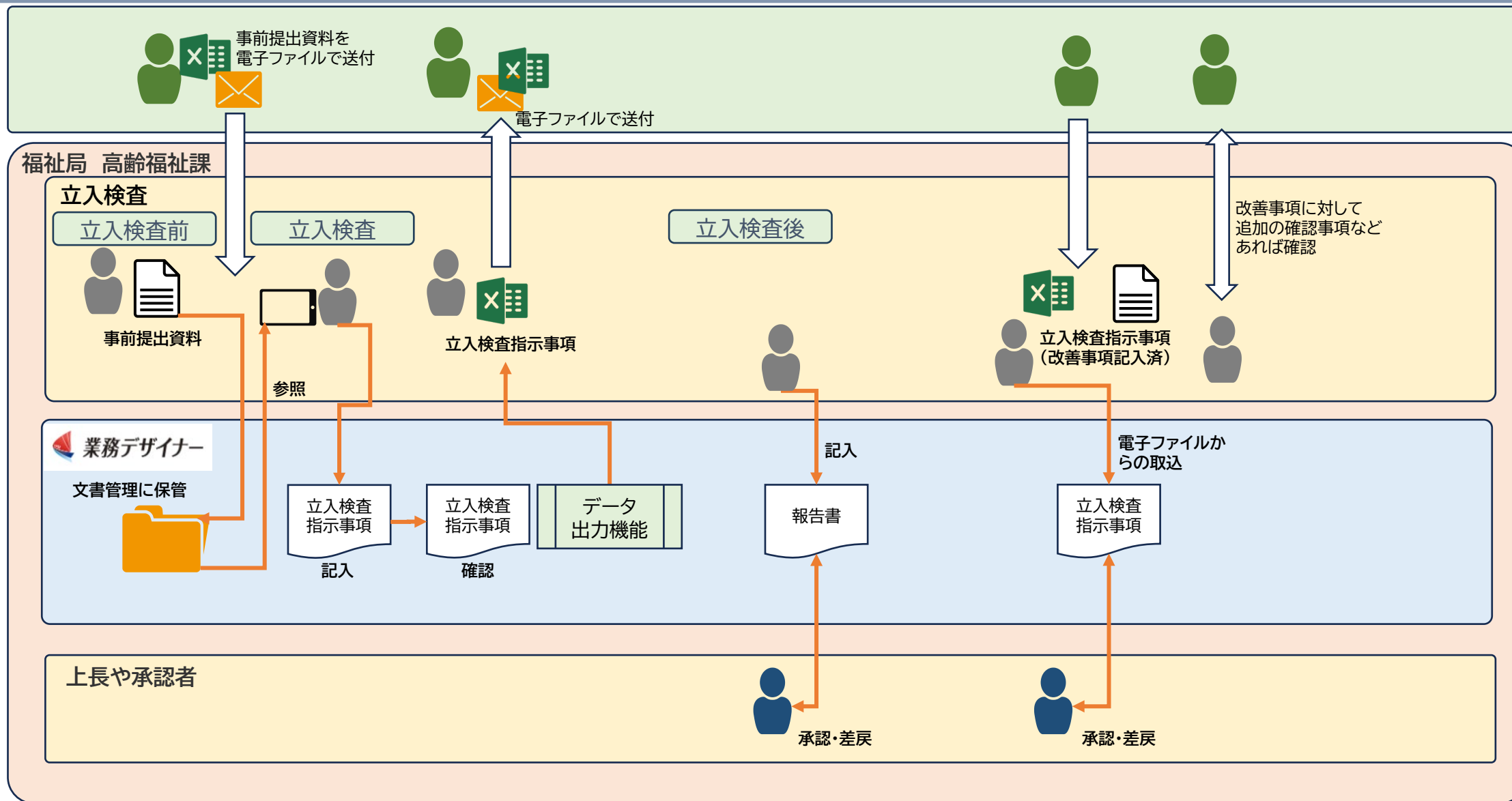
課題の解決策

- **デジタルワークフローシステム構築**
 - 立入検査時の改善指示事項を電子化することで作成時間の削減
 - 指導記録の逐次データ化
 - 過去の指導状況等がすぐに閲覧可能
- **オンライン上で資料を確認できるシステムの導入**
 - 紙の資料などからオンライン上で資料を確認することで検索性もあがり、立入検査時に持ち込む資料を減らす。

実証実験の範囲



立入検査業務の業務フロー



目標・KPI

1. 立入検査業務の時間短縮

- 立入検査で質問に対応した資料の検索時間(紙から電子)…………… 80%削減
- 調査指示事項の入力時間(紙から電子)…………… 50%削減
- 書き間違い等で発生していた業務内容の改善

2. 高齢福祉課内作業時間の短縮

- 改善指示事項と改善事項データ入力時間…………… 80%削減
- 立入検査の報告書の入力時間(紙から電子)…………… 50%の削減

3. 適切な指示の実現

- 属人化を回避できているか確認

2. 実証実験の結果

KPIに関連する結果

2024年10月17日～11月29日までの1.5か月で**23件の立入検査にて実証実験を実施**しました。

1. 立入検査業務の時間短縮

No.	短縮をする事務処理時間	KPI	手作業による作業時間	電子化後の作業時間	結果	
1	資料の検索時間	80%の削減	1件あたり 平均4分	1件あたり 平均1分	75%削減	△
2	改善指示事項の入力時間	50%の削減	平均30分	平均4.0分	87%削減	○

2. 高齢福祉課内作業時間の短縮

No.	短縮をする事務処理時間	KPI	手作業による作業時間	電子化後の作業時間	結果	
1	改善指示事項と改善事項の入力 時間	80%の削減	平均15分	平均8.6分	43%削減	△
2	立入検査報告書の入力時間	50%の削減	平均45分	平均23.5分	48%削減	△

- KPIを達成できなかった項目もあったが、結果としてすべての作業に対して**削減効果がありました。**
- 改善指示事項から報告書の入力までの**事務処理時間が全体で60%の削減**
- 特に立入検査時の改善指示事項の入力時間が、**50%の削減目標に対して87%の削減を実現**し、改善指示事項の作成を迅速に行えました。

KPIに関連する結果

“ ワークフローシステムによる事務処理時間の短縮を目標に検証を実施した結果 “

3. 適切な指示の実現

- アンケート結果から、誰が検査しても適切な指示が実現できるという回答がありました。

アンケートによるご意見

- 本格導入時の立入検査業務の一連の作業が現状よりも減ると見込まれる。
- デジタル化により書き間違いが減った。
- 本格導入時の高齢福祉課内報告業務の一連の作業も現状よりも減ると見込まれる。

とあり、電子化運用に切り替えることで作業時間の短縮が期待されます。

工夫したポイント

令和 6 年度 有料老人ホーム立入調査指示事項 令和06年11月18日実施

立入調査員	愛知県福祉局高齢福祉課	法人名			
職・氏名		施設名			
		所在地	種別		
		立会者			
区分	指示事項	改善状況			

- 紙運用イメージを踏襲しながら、帳票を電子化することで、今までの運用に大きな変更を加えないようにしました。

- 改善指示事項をExcelファイルで出力して改善状況を記入して返してもらうことで、転記ではなくExcelファイルの内容をそのまま取込めるようにしました。

- 報告書の様式も電子化し、立入検査時のデータを連携することで入力負担軽減することを検討しました。

- 紙のイメージをそのまま電子化することでスムーズな運用
- 改善報告は電子ファイルで返却してもらうことで、郵送の時間や費用もかからず、転記せずに取り込むことが可能
- 選択肢やデータ連携による入力補助で、入力の負荷軽減

実証実験で得られた発見

1. 施設側の反応について

- ご協力いただいた施設に電子化のご説明をする中で、電子ファイルで渡された方が紙と違い紛失のリスクが減るため好意的なご意見をいただきました。実証実験の中で紙の指示事項を必要とされる場合を想定して印刷の用意もしていましたが、1枚も印刷することなく電子ファイルでのやり取りで完結しました。

2. 電子化後の改善指示について

- 電子化により、指示事項の拡大表示ができるため、施設の方に指導がより行いやすくなった。

3. 書類の管理について

- 物理的に紙が減るので書類の整理につながる
- 書類を束ねたファイルを持ち込む必要がなくなり、立入検査時に持ち込む荷物が減り助かった。

デジタルワークフローの導入効果

【導入効果】

- データのマスタ管理により、選択式にすることで事務処理時間短縮を図ることができる。
- 入力項目の入力漏れ/入力間違いの防止を図れるため、スムーズに事務処理ができる。
- 申請書の回覧や通知を電子上で行えるため、紙媒体を出力しての作業を極力無くすることができる。

【今後電子化を進めるにあたって必要なデジタルワークフロー機能】

①ワークフロー制御機能

- 改善指示事項や報告書が業務に合わせて流れていくフローを制御できる。

②入力フォーム作成機能

- 業務に合わせて入力内容のエラーチェックを追加できる。

③マスタ管理機能

- マスタを予め用意しておくことで、選択式の入力となり入力間違いの防止ができる。

④データ出力機能

- 指示事項や改善事項を利用する為に一覧で出力できる。

3. 課題と今後の展開

サービス/ システムに関する課題と解決策

1. 改善指示事項の根拠となる法令も表示したい

- 改善指示事項の根拠となる法令等も併せて表示されるようになるとより良い。
→ 改善指示事項をマスタとして管理するようにしたので、根拠となる法令を追加することで改善指示事項を選択すれば自動で表示するように設定を変更する。

2. 報告書の内容について

- 記載事項が多い場合に、現状のフォーマットでは2枚目に書けず文章を調整する必要がある。(印刷プレビュー等で文章がどの程度見切れるのか確認する必要がある。)
→ 帳票を可変で増やすことができないため、必要となる最大の量から逆算して帳票の設定を見直す。

導入に向けての課題と解決策

①今後法改正が行われた場合にフォーマットの変更がある可能性があるが、その対応を職員側でスムーズに対応できるか。

→ 帳票のフォーマットについては、ノンプログラミングで作成できる機能があり、本格導入時には操作説明も実施することで利用ユーザー自身で変更することができます。また、ユニオンシンクがヒアリングして代行で作成することもできます。

②データとして取り込んだ写真や図面に、手書きで文字が書き込めるようになれば、今後よりよい検査ができると感じた。

→ 別のアプリケーションで書き込んでいただきそれを取り込むことで対応ができます。

4. 參考資料

成果物(制作物)紹介

【電子化した立入検査指示事項の帳票】

業務デザイナー Ver.7.8.1 実証実験用環境 AICHIXTECH2024 システム 管理者

新規申請 | 申請フロー未処理 1件 | ホーム | 申請フロー | 要求一覧 1 | 通知一覧 | 一括承認 | 帳票検索 | 代行依頼設定 | 期限カレンダー | 管理機能 | 申請フロー状態一覧 | ユーザー設定 | グループ設定 | 部署設定

操作ボタン: 前へ | 保存 | 作成 | 中止 | 削除 | 次へ

立入検査業務報告 立入調査指示事項

ページ表示: フロー表示 | ページ 1 | ページ 2 | ページ 3

令和 6 年度 有料老人ホーム立入調査指示事項 令和06年11月18日実施

立入調査員	愛知県福祉局高齢福祉課		法人名	
職・氏名			施設名	
			所在地	種別
			立会者	
区分	指示事項		改善状況	

現状書式イメージのままシステム化が可能

業務デザイナーの『帳票』と『業務フロー』が作業負荷の軽減と業務統制を実現

申請したい帳票を起票し、内容を入力します。フロー図上に進捗状況が表示される為、帳票の所在が一目で分かります。

帳票

一般稟議申請

発行	2021/05/25	部署	システム管理グループ
法務	2021/05/25	提出者	システム 管理者
承認		部署	
責任者		担当者	

件名 : 大阪本社 改装に伴う物品購入

内容

項目名	数量	単価	金額
フリーアドレスデスク	10	¥38,500	¥385,000
オフィスチェア	20	¥6,880	¥139,600
合計	0	¥0	¥0

入力欄の色分け
 緑: 必須入力
 黄: 任意入力
 赤: 複数項目の入力連動

フロー図

稟議申請書 (購入申請)

業務手順、注意点を記載できる

「描いたらその通りに動く」フロー図により、現在の業務が見える化でき、**ルールの順守と属人性の排除**を実現

データを日々蓄積し、活用へつなげる(データの利活用)

簡単な画面操作で抽出したい項目を選び保存するだけで、リアルタイムにデータを抽出し自由に分析資料を作成することが可能です。



メディア掲載事例

◆ PR TIMESに掲載

PR TIMES プスリリス・ニュースリリース配信サービスのPR TIMES プスリリスを受信 企業登録申請 ログイン 🔍

[Top](#) | [テクノロジー](#) | [モバイル](#) | [アプリ](#) | [エンタメ](#) | [ビューティー](#) | [ファッション](#) | [ライフスタイル](#) | [ビジネス](#) | [グルメ](#) | [スポーツ](#)

株式会社ユニオンシンク フォロー

昨年に続き、愛知県のICT活用の実証事業者に採択されました<株式会社ユニオンシンク>

株式会社ユニオンシンク

2024年8月20日 14時00分



株式会社ユニオンシンク（本社：大阪市中央区、代表：西谷 洋志、以下当社）は、昨年に続き、愛知県のICT活用課題解決支援事業（愛称：「AICHI X TECH（アイチ クロス テック）」）の実証実験を行う企業に採択されました。

・ 有料老人ホーム立入検査業務の効率化を提案

愛知県では、県庁内のさまざまな課題に対してICTを活用し課題解決に向けた実証実験を行う、ICT活用課題解決支援事業（愛称：「AICHI X TECH（アイチ クロス テック）」）を2022年度から実施しています。

今年度に県が提示した10件の課題のうち、当社は福祉局高齢福祉課の「タブレット・PC等を活用して、有料老人ホーム立入検査業務を効率化したい!」に応募。当社のワークフローシステム「業務デザイナー クラウド」を活用した業務効率化の提案を行い、採択されました。